

2026年1月20日

No. 6 5 5

4月、7月、9月、11月、1月、3月
20日発行



発行人
〒960-8502 福島市南中央三丁目36番地
公益社団法人 福島県畜産振興協会
電話 (024) 573-0515
FAX (024) 573-0565
URL <http://fukushimalin.gr.jp/index.htm>
anteil@bz03.plala.or.jp
kanri-eiseika@bz03.plala.or.jp
keikai@bz03.plala.or.jp
編集者 森 口 克 彦
印刷所 (株) 第一印刷



新年のごあいさつ



公益社団法人福島県畜産振興協会
福島県畜産関係団体連絡協議会
会長 紺野 宏

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

県内の畜産生産者・会員の皆様並びに関係機関の皆様には、日頃より当協会の事業推進に特段のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、畜産を取り巻く情勢は目まぐるしく変化し、国際情勢や為替相場の不安定さなどの影響により、飼料をはじめとする資材価格の高止まりは長期化の様相を呈しているところです。経営の持続性に大きな影響を及ぼしている現在の厳しい情勢を常に注視していかなければなりません。

農林業センサス速報値において、畜産経営体の減少と大規模化の加速が報告されております。これらは、わが国全体の畜産生産基盤が縮小と転換の局面にあることを示すものであり、制度的支援や政策的配慮の重要性を改めて認識させる数値となりました。

そのような中、県内における家畜取引は、昨年の和牛をはじめとして全般的に安定回復の兆しを見せています。一昨年、肉用子牛生産者補給金が23年ぶりに発動され、経営を廃止する農家の増加が懸念されましたが、昨春以降は和子牛も堅調相場が定着しているところです。肉用牛の繁殖経営、肥育経営、双方において今後も持続可能なバランスの中で健全な家畜の取引が展開していくよう望まれます。

さて、本格的な冬を迎え、今期も高病原性鳥インフルエンザの国内での発生が報告されています。昨シーズンに比べ野鳥、家きんともに発生件数は少なく推移していますが、予断を持たず防疫対策の徹底を図っていかなければなりません。

家畜伝染病の発生リスクは国際的な交流の拡大や気候変動などの要因により、年々多様化し、生産現場では更なる防疫体制の強化が求められております。一つの地域での発生が、瞬く間に広域へ拡散するリスクを十分認識し、それ

ぞれの畜産経営を守っていくために、小さな兆候も見逃さず、早期発見・迅速対応を徹底することが重要です。

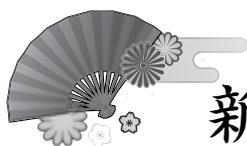
当協会は、これからは地域の衛生指導協議会と連携を密にし、鳥インフルエンザをはじめとする特定家畜伝染病の侵入防止対策を徹底するため、的確な情報提供を心掛けるとともに、家畜衛生対策事業の一層の推進、飼養衛生管理基準の遵守と徹底に向けた現場支援に全力を尽くしてまいります。

東日本大震災と原発事故の発生から間もなく15年となり、3月末には第二次復興・創生期間の区切りを迎えます。その象徴となる被災12市町村地内での、新たな二つの大規模復興牧場の完成と稼働が待たれます。シャインコースト株式会社（県酪農協、全酪連、被災酪農家の出資）が管理運営する「浪江町大規模畜産施設」、そしてJA全農グループ（株式会社美土里耕産）が運営する「全農美土里ファーム」です。これらは共に乳牛成牛1,000頭超規模の生乳生産を柱として、地域畜産業の再生と次世代への継承を担う拠点機能を有し、福島から全国へ未来志向の姿勢を発信するものです。安全・安心の確立、地域ブランドの強化、そして若い世代の育成は、福島の復興から全国へ広がる希望の象徴になるものと大いに期待されております。

当協会といたしましては、国や県等関係機関・団体と連携し、持続可能な経営基盤の強化とさらなる畜産の振興に向けた各種事業を実施するとともに、国・県に対して万全の対策を講じるよう関係機関・団体と一体となって強く求めて参ります。

結びに、本県の畜産が新しい飛躍のステージに入り、より一層生産基盤の強化が図られるよう役職員一丸となって取り組んで参りますので、本年もご支援、ご指導を賜りますようお願いいたします。

皆様方の益々のご活躍とご健勝をご祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。



新年のごあいさつ



福島県農林水産部
部長 沖野 浩之

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

皆様には、日頃より本県畜産の振興に特段の御理解と御協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、生乳処理体制の強化に向けた県内主要乳業メーカーの新工場が竣工したほか、田村市及び浪江町における復興牧場の本格稼働に向けた準備が着実に進んでおり、復興と畜産振興を両立させる取組として、大きな期待を集めております。更には、和牛子牛価格が全国的に上昇し、本県においても令和4年5月以来の高値となるなど、本県畜産の確かな前進を実感する一年となりました。これらの成果は、関係団体や生産者の皆様が日々積み重ねてこられた取組みの賜物であり、その御尽力に改めて深い敬意を表します。

一方で、畜産業をめぐる情勢は、飼料価格の高止まりによる経営の圧迫、担い手不足や高齢化に伴う酪農・肉用牛の戸数の減少、物価上昇を背景とした生活防衛意識の高まりによる和牛枝肉価格の低迷など、依然として厳しい状況となっております。このような中、本県の畜産業が将来にわたり持続的に発展していくためには、自給飼料生産体制の強化や、高品質な家畜・畜産物の安定生産と販売力の強化を地域一体となって着実に進めていくことが重要であると考えます。

県といたしましては、畜産農家の経営継続を後押しするため、飼料価格の上昇分の一部を支援するとともに、自給飼料の生産拡大への取組など、地域内で安定的に飼料を確保できる体制の構築を進めてまいります。

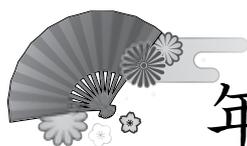
また、和牛繁殖雌牛の増頭や高能力乳用雌牛の導入、ゲノミック評価やAI肉質診断技術を活用した福島牛の高品質化、牛群検定の活用による経営体質の強化、全国和牛能力共進会に向けた優秀な出品候補牛の生産などを支援し、生産基盤の強化に取り組んでまいります。

さらに、マスメディアを活用した情報発信や販売促進イベントの展開を通じて、福島牛「^{ふくほっか}福栞花」をはじめとした本県畜産物の認知度・ブランド力の向上を進めてまいります。

これらの取組みを相互に連動させることで、皆様が安心して畜産経営を継続・発展していけるよう、県として多角かつ的確な支援を行い、「福島県農林水産業振興計画」に掲げる『「もうかる」「誇れる」共に創るふくしまの農林水産業と農山漁村』の実現に向けて着実に取り組んでまいります。生産者の皆様におかれましては、各種事業等を効果的に御活用いただきながら、畜産生産基盤の強化に取り組んでいただくとともに、関係機関・団体の皆様には、引き続き各種施策の推進に、御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。

家畜防疫関係につきましては、全国各地で高病原性鳥インフルエンザが発生しており、本県においても野鳥の感染が確認されるなど、引き続き厳重な警戒が必要な状況となっております。また、豚熱やアフリカ豚熱をはじめとした家畜伝染病についても、依然として予断を許さない状況が続いております。こうした状況を踏まえ、本県では、各地での防疫演習の実施や関係団体との連携強化、ワクチン接種体制の整備など、危機意識を共有しながら防疫対策に取り組んでいるところです。今後とも、飼養衛生管理基準の遵守はもとより、農場における早期発見・早期通報、野生動物の侵入防止対策等の着実な取組みの徹底について、皆様の御協力をお願いいたします。

結びに、本県畜産業の更なる振興に向け、皆様の一層の御尽力をお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとって素晴らしい年になりますことを心から祈念し、年頭の御挨拶といたします。



年頭のごあいさつ



農林水産省東北農政局福島県拠点
地方参事官 松井章房

新年、明けましておめでとうございます。

令和8年の新春を迎えるにあたり、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年は、改正食料・農業・農村基本法において「食料安全保障の確保」が明確に位置付けられ、新たな基本計画や酪肉近（酪農及び肉用牛近代化計画）が策定されるなど、畜産分野にとって極めて重要な節目の年となりました。これらの政策は、国内農業の持続性を高め、国民に安定的に食料を供給するための基盤を強化するものです。畜産業はその中核を担う産業であり、今後も社会的責任を果たしながら発展していくことが求められています。

一方で、畜産情勢を振り返りますと、円安の影響による輸入飼料価格の高止まり、物価高騰に伴う消費者の生活防衛意識の高まりから、和牛枝肉価格が低迷するなど、厳しい経営環境が続きました。

さらに、家畜伝染病については、高病原性鳥インフルエンザや豚熱が依然として国内で発生しており、生産現場における飼養衛生管理の徹底が強く求められています。家畜伝染病は、畜産業の経営の持続性を揺るがしかねない重大なリスクであり、国・地方自治体・事業者が一体となって対応する必要があります。高病原性鳥インフルエンザは、昨年10月以降、国内で1道1府7県13事例（1/6時点）において発生しています。全国どこで発生してもおかしくない状況であり、引き続き最大限の警戒をお願いします。また、豚熱やアフリカ豚熱についても、関係者と危機感を共有し、飼養衛生管理の徹底を基本とした発生予防・まん延防止対策と水際での侵入防止対策に関係機関と連携して全力で取り組んでまいります。

生産者の経営改善に向けた取組への支援としては、引き続き、配合飼料価格安定制度や畜種ごとの経営安定対策、金融支援などの施策を総合的に講じてまいります。加えて、国際環境の変化に左右されにくい畜産・酪農経営を確立するためには、輸入飼料への過度な依存から脱却し、国産飼料の生産・利用拡大を進めることが必要です。このため、耕畜連携により、国内肥料資源としての堆肥の活用を推進しつつ、田畑における青刈りトウモロコシや子実トウモロコシ、飼料用米、ソルガムなどの飼料作物の生産を推進し

てまいります。また、飼料生産組織のオペレーターの確保・育成や作業機械の導入支援を通じてその運営強化に努めるとともに、飼養管理の省力化や条件不利地の活用のために有効な手段である放牧についても、特に肉用牛繁殖経営や中山間地域におけるさらなる活用を推進してまいります。現在、県内1,007地区において策定された地域計画のブラッシュアップの取組を進めておりますが、この中で、飼料生産を地域計画に位置付けることも併せて促してまいります。

本年は、農業構造転換集中対策の2年目を迎えます。畜産分野においても、食肉・食鳥処理施設や家畜市場、乳製品加工基幹施設等の再編・合理化等を進めるとともに、畜産の持続性や社会的価値を高めるための施設整備や機械導入を強力に推進します。特に、食肉処理施設・食鳥処理施設の再編・合理化等については、事業者負担を軽減するため補助率を3分の2に引き上げる措置を講じ、産地の取り組みを後押しします。

また、枝肉価格が弱含みで推移する中、和牛肉の需要拡大も引き続き重要な課題です。国内消費の促進に加え、輸出拡大にも注力します。昨年度と同額の170億円を措置した「和牛肉需要拡大緊急対策事業」により、販売促進や海外販路の開拓を支援し、国内外で和牛の魅力を発信してまいります。こうした取り組みは、生産者・食肉処理施設・輸出事業者が連携し、日本産和牛のブランド価値をさらに高めることにつながります。

さらに、畜産業の持続性を確保するためには、環境負荷低減やカーボンニュートラルへの対応も避けて通れません。家畜排せつ物の適正処理や再資源化、メタン排出削減技術の導入など、環境と調和した畜産経営を進めることが、国際的な潮流に沿った競争力強化にもつながります。こうした取り組みを産地とともに加速させ、次世代に誇れる畜産業を築いてまいります。

最後に、本年は新たな基本計画や酪肉近の理念を着実に実現するための極めて重要な一年です。引き続き農政へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご活躍を心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

発酵飼料を活用した黒毛和種短期肥育技術について

福島県農業総合センター畜産研究所沼尻分場

近年の配合飼料価格の高騰を背景に、生産コスト削減を旨とした短期肥育技術や飼料利用性などが注目されています。

一般的に、黒毛和種肥育（去勢）は、29ヶ月齢前後で出荷されますが、短期肥育は、通常よりも前倒しで、肥育前期から配合飼料を多く摂取させることで、肥育期間を3ヶ月間程度短縮することが可能です。

短期肥育は、飼料費などの生産コスト削減の利点がある一方で、短期間に配合飼料を多給するため、第一胃に負担がかかり、肥育中期以降に食い止まりが発生しやすくなります。

そこで、食い止まりの防止を目的に、当场（繁殖肥育一環農場）で消化吸収に優れた醸造副産物を主な原料とした発酵飼料を全期間1.0kg/頭/日給与した牛群（給与群：10

頭）、肥育前期に1.5kg/頭/日に増やした牛群（強化給与群：5頭）、給与しない牛群（無給与群：5頭）を設定し、飼料摂取量、枝肉成績について比較しました。（表1）

その結果、強化給与群において、配合飼料摂取量は肥育中期の急な落ち込みや肥育後期以降の減少が抑制され（図1）、枝肉についても良好な成績が得られました（表2）。

短期肥育の一手法として、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

（本研究は、令和7年度福島県とJAグループ福島による共同事業（コンソーシアム）及び令和6年度みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち農林水産研究の推進（委託プロジェクト研究）において実施したものです。）

表1 飼料給与計画

（飼料単位：Kg）

	育成		肥 育																				
	飼料切替		前期				中期					後期											
月齢	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25						
配合飼料	0.5→7.2		7.2～				7.8～					飽食（目安8.8～9.4）				飽食（目安8.4～9.0）							
発酵飼料																							
強化給与群	1		1.5									1											
給与群	1		1									1											
無給与群			0																				
稲わら	0→1.5		1.5→1.2				1.2					1.1				1				0.8 0.7			
乾草	5→0											0											
バイパス蛋白	0.5→1		1									0											
設定 DG			1.16									0.98				0.77				0.64			

図1 飼料摂取量の推移

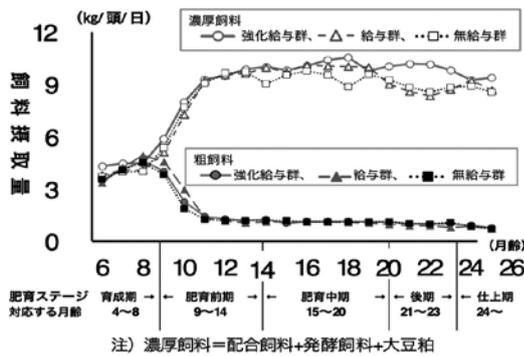


表2 出荷時体重、出荷月齢及び枝肉成績

	強化給与群	給与群	無給与群
出荷時体重 (kg)	791	757	777
出荷月齢	25.3	25.3	24.9
枝肉等級	A5 (4頭) A4 (1頭)	A5 (9頭) A4 (1頭)	A5 (4頭) A4 (1頭)
枝肉重量 (kg)	521	493	512
ロース芯面積 (cm ²)	73.2	64.8	67.4
ばらの厚さ (mm)	9.5	9.1	9.5
皮下脂肪の厚さ (cm)	2.3	2.5	2.9
保留基準値	76.7	75.6	75.5
BMS No.	9.4	9.8	9.4

御用命は

- ◎牛用・豚用・鶏用 各種ワクチン類
- ◎家畜防疫資材
- ◎家畜用医薬品
- ◎家畜用衛生資材

福島県動物薬品器材協会
事務局 株式会社アスコ内
☎(024)3363124 2488

小田島商事株式会社

福島市鎌田字御町十一の四
☎(024)55316678

日本全業工業株式会社

福島営業所
郡山市安積町笹川字平の上1-1
☎(024)94513306

株式会社アグロジャパン

南東北営業部(福島)
郡山市開成六丁目六七-1
☎(024)95414171

日新殖産株式会社

伊達市梁川町字東塩野川二五-1
☎(024)57713122

株式会社アスコ

本宮市本宮字下台18-12
☎(024)3363124 2488

「動物用医薬品は、
正しく使用し、
休業期間を
厳守しましょう」

第66回全国牛削蹄競技大会 ～安達支部の高野智徳が総合部門優勝～

福島県装削蹄師会

認定牛削蹄師の牛削蹄技術の向上を目的に牛の蹄を削る技術を競う農林水産祭「第66回全国牛削蹄競技大会」(公益社団法人 日本装削蹄協会主催)が11月11日に茨城県水戸市の笠間瑞穂(株)鯉淵分場において各地区から選出された24名により大会が開催されました。

本県からは第35回東北地区牛削蹄競技大会(山形県新庄市 JA全農山形最上家畜市場)を勝ち抜いた2名(安達支部の高野智徳、同じく安達支部の武藤智哉)が全国大

会に出場し牛削蹄判断競技(筆頭試問、歩様判断等)及び牛削蹄競技(単独保定による実技)に臨みました。

大会結果は、高野智徳が総合部門優勝(最優秀賞)、武藤智哉が牛削蹄判断競技部門優勝となりました。(全国大会結果は以下のとおり。)

なお、福島県勢の総合部門優勝者は、平成28年度(第58回全国牛削蹄競技大会)の武藤稔貴(安達支部)以来となります。

※競技結果※

総合部門 優勝(最優秀賞) 高野 智徳(福島県装削蹄師会)
総合部門 準優勝(優秀賞) 川村 真美(鳥取県装削蹄師会)
総合部門 第3位 中屋敷顕也(岩手県装削蹄師会)

種目別部門 牛削蹄判断競技 優勝 武藤 智哉(福島県装削蹄師会)
種目別部門 牛削蹄競技 優勝 川口 桂介(群馬県牛削蹄師会)

※最優秀賞には農林水産大臣賞
優秀賞には農林水産省消費・安全局長賞が授与された。



総合部門優勝の高野智徳
(日本装削蹄協会提供)



全国大会入賞者
左より、種目別部門牛削蹄競技優勝 川口桂介、総合部門準優勝 川村真美
総合部門優勝 高野智徳、総合部門第3位 中屋敷顕也
種目別部門牛削蹄判断競技優勝 武藤智哉 (日本装削蹄協会提供)

福島の大自然とみつばちからの恵み

天然はちみつをどうぞ

福島県養蜂協会

〒960-8502

福島市南中央三丁目36番地(福島県畜産振興協会内)

TEL 024-573-0515 FAX 024-573-0565



美容・健康に
おこころ
なみち
はちみつ
が！

子牛初セリにおいて牛鍋イベントを開催

うつくしま福島畜産mother'sクラブ e-EN

令和8年1月8日、9日に本宮市県家畜市場で全農福島県本部による和牛子牛市場（初セリ）の開催に合わせ、うつくしま福島畜産mother'sクラブ e-ENにより牛鍋イベントを開催しました。（協賛：全農福島県本部・（公社）福島県畜産振興協会）

このイベントは、県内の畜産に携わる女性の仲間たちが、東日本大震災後、福島県の子牛を信頼して購入してくれる購買者や関係者に感謝の気持ちと、同じ生産者への励ましの思いも込めて少しでも温かいものをと、黒毛和牛を使った牛鍋を初セリに振舞っているイベントです。

新型コロナウイルス感染症対策の影響で一時中止となったこともありましたが、毎年楽しみにしている生産者も多く、準備した800食（2日間で1,600食）の牛鍋がお昼前には完

食という盛況振りでした。

一般財団法人畜産環境整備機構副理事長 原田英男氏との座談会も実施し、意見交換会では、現在の経営状況や今後の見通しなどを含め、日ごろの思いを直接口にする機会となり、活発な意見交換ができました。

苦しい経営の中でもそれぞれが前を向いて頑張る姿や気持ちを確認する貴重な時間となり、今後も継続して実施してほしいとの要望がありました。

畜産情勢の厳しい中ですが、これからもみんなで励まし合い少しでも畜産を盛り上げていけたらと思います。

また、イベント開催にあたり数々のご協力を賜りましたこと、この場をお借りして感謝申し上げます。



イベントアナウンスする木目澤会長



牛鍋配布の様子



牛鍋



牛乳で乾杯

マザーズクラブから行事開催のお知らせ

3月18日(水)10時より「県農業総合センター」(郡山市)において、会津木綿を使った小物づくりを開催します。
(講師：マザーズクラブ福田祐子さん)

興味のある方はどうぞご参加ください。

お問合せ先：福島県畜産振興協会（野田）
電話番号：024-573-0514

品質と信頼の

くみあい配合飼料

JA全農グループ

JA全農くみあい飼料株式会社

北日本事業本部

〒983-0045 仙台市宮城野区宮城野一丁目12-1 いちご仙台イーストビル
TEL (022) 792-8040 (代表)

南東北支店 福島営業所

〒963-0725 郡山市田村町金屋字川久保23 JA全農福島郡山ビル2F
TEL (024) 941-0825
FAX (024) 941-0827

第5回 牛乳標語・川柳コンクール審査会 第36回 ミルキー図画コンクール審査会 開催

去る11月20日(木) コラッセふくしまにて、福島県牛乳普及協会主催(会長 紺野宏) 第5回 牛乳標語・川柳コンクール審査会を開催しました。

福島市立渡利中学校 川名有香先生を審査員長に迎え、紺野宏会長、鈴木伸洋副会長、妹尾毅氏(県畜産課主任主査)が審査員を務めました。

県内中学校20校から528点の標語・川柳の応募があり、入賞30点を選出していただきました。「今回も時代や社会に合わせた言葉や表現で作品が作られていて、場面が浮かびやすい作品が多かったと感じた」と、講評をいただきました。

入賞作品のご紹介

※最優秀賞※



いわき市立小名浜第二中学校
一年 金本悠莉さん



須賀川市立須賀川第一中学校
二年 七海心音さん

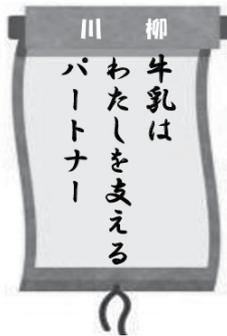


郡山市立第五中学校
三年 安田拓未さん

※優秀賞※



会津若松市立第三中学校
一年 榎森悠斗さん



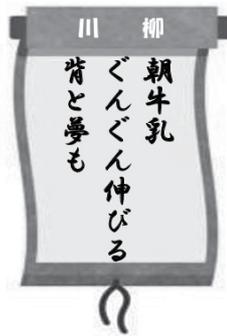
会津若松市立第三中学校
一年 佐々木あおいさん



喜多方市立高郷中学校
二年 清野苺菜さん



西郷村立西郷第一中学校
二年 郡山夏綾さん



須賀川市立第一中学校
二年 佐川希歩さん



須賀川市立第一中学校
二年 鈴木彩心さん

国産の牛乳、お肉、卵を食べてまもろう

畜産物を生産するためのコストが上昇しています。皆様に国産の畜産物を食べていただくことが生産者の応援に繋がります。

公益社団法人 **中央畜産会** × 公益社団法人 **福島県畜産振興協会**

全国の畜産会組織は地方競馬の売上の一部を活用して、日本の畜産振興に取り組んでいます。

畜産福島

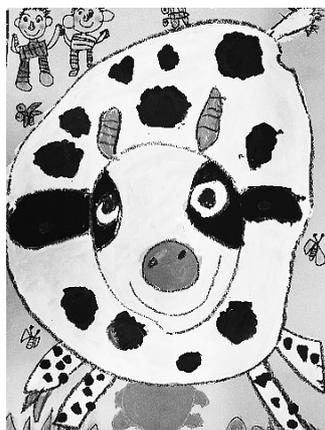
また、11月22日(土)には、福島トヨタクラウンアリーナにて、第36回ミルクイ図画コンクール審査会を開催し、福島市立鎌田小学校 清野美江子先生を審査員長に迎え、紺野宏会長、妹尾毅氏(県畜産課主任主査)が審査員を務め、2,782点の応募作品の中から50点を選出していただきました。

「上手だけでなく、牛をよく見て描いている、好きで触れ合った経験から描いているのかなという、心のこもった作品が選ばれたのだと思う」と講評をいただきました。

入賞作品のご紹介



年少の部：相馬市立日立木幼稚園
最優秀賞 4歳 荒かのんさん



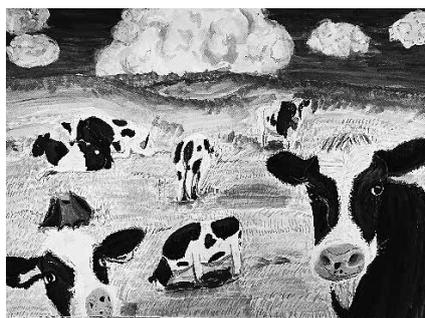
年長の部：相馬市立日立木幼稚園
最優秀賞 5歳 門馬有さん



低学年の部：会津坂下町立坂下東小学校
最優秀賞 2年 大竹望由さん



中学年の部：いわき市立中央台南小学校
最優秀賞 4年 小野春陽さん



高学年の部：郡山市立芳山小学校
最優秀賞 6年 小野翔大さん



審査風景

【令和7年度入賞作品展示会日程】

- <福島市> こむこむ館2階 交流コーナー
令和8年1月19日(月)～1月30日(金)
- <いわき市> いわき・らら・ミュウ2階 市民ギャラリー
令和8年2月12日(木)～3月2日(月)
- <須賀川市> tette (テッテ) 須賀川市民交流センター
令和8年3月19日(木)～3月24日(火)

肉用子牛のための「強化」哺育専用代用乳」ができました!!



“強化”哺育とは…

- ・子牛が本来もっている発育能力をフルに発揮させる哺乳方法です。
- ・従来の粉ミルクとは全く違った栄養バランスの粉ミルクを、通常よりも多く給与することにより、フレームのしっかりした牛に育ちます。また、固形飼料の摂取量低下を防ぎ、より食い込める素牛への成長を助けます。

福島県酪農業協同組合 〒969-1103 本宮市仁井田字一里壇17 TEL: 0243-33-1101(代)



第46回 牛乳・乳製品利用料理コンクール 福島県大会 開催



福島県牛乳普及協会

今年度は、県内の高校・専門学校・大学から246作品の応募があり、9月25日(木)に県酪農協にて書類審査が行われました。書類審査にて選ばれた9名による実技審査が10月23日(木)福島市松川町の福島県学校給食会にて開催されました。

畑中料理研究所所長 畑中成純氏を審査委員長に、(公社)福島県栄養士会名誉会長 鈴木秀子氏、(株)益蔵代表取締役 大澤益三氏(新)、福島県農林水産部畜産課課長 横田真良氏、福島県牛乳普及協会会長 紺野宏が審査員を務めました。

出場者は慣れない調理場で緊張しながらも一生懸命に料理の腕を振るいました。地元や旬の食材と牛乳・乳製品を

使ったアイデア・個性豊かな作品でした。

今年度の最優秀賞には、郡山女子大学附属高等学校 三浦桃果さんの「ニューニュー桃リゾット」が選ばれました。

今年度から審査員を引き受けていただいた大澤氏は、「食材をどのようにして、何をどう合わせるかという事をもっと追及していくと、素晴らしい料理がまだまだ出来ると思う。誰に食べさせたいかを思いながら作ると、どの料理も心に届く料理になると思う」とおっしゃっていました。

今年度も、県大会を無事に終えることができましたこと、関係者の皆様には改めて御礼申し上げます。今後、料理コンクールの作品を載せた「レシピ集」を作成・配布いたしますので、ご覧になりぜひ作ってみてください。

最優秀賞



ニューニュー桃リゾット
三浦桃果さん 郡山女子大学附属高等学校

優秀賞



パリッと食感のマッシュポテトチーズせんべい
片寄優衣さん 郡山女子大学附属高等学校

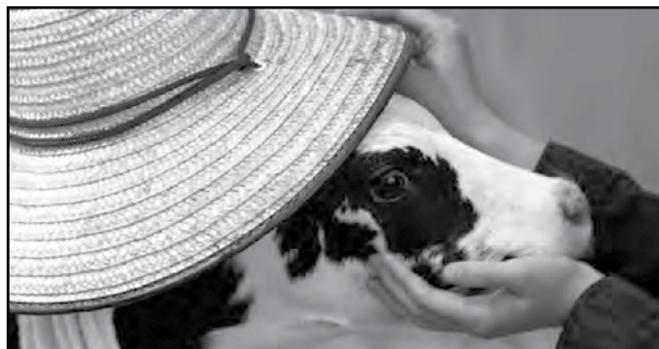
会長特別賞



冷製レモンクリームパスタ
佐藤龍哉さん 相馬農業高等学校



集合写真



動物と人の間に、いつもゼノアック。



日本全業工業株式会社
福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1
ZENOAQ www.zenoaq.com



畜 産 福 島

肉用子牛生産者補給金制度発動状況

令和7年度第3四半期（令和7年10月～12月）

（単位：円／頭）

区 分	黒毛和種	褐毛和種	その他の肉専用種	乳用種	交 雑 種
保証基準価格	574,000	523,000	334,000	164,000	274,000
合理化目標価格	446,000	406,000	259,000	110,000	216,000
平均売買価格	715,500	652,900	—	218,000	448,500
補給金単価	—	—	—	—	—

※「その他の肉専用種（日本短角種等）」については、令和2年度より算定期間を1年（4月～3月）としています。

優良和子牛生産推進緊急支援事業及び肉用牛緊急特別対策事業 （和子牛産地基盤強化緊急特別対策事業）の発動状況（令和7年10月～12月分）

今期は、黒毛和種及び褐色和種について、いずれの事業も平均価格が発動基準価格を上回ったため、奨励金の交付はありません。

令和7年10月～12月分

1 平均価格及び発動基準価格

（単位：円／頭）

品種・ブロック名	平均価格	優良和子牛生産推進緊急支援事業 【継続事業】			和子牛産地基盤強化 緊急特別対策事業 【新規事業】		
		発動基準価格			奨励金 発動	発動基準 価格	奨励金 発動
		A	B	C			
黒毛和種	北海道	737,454	610,000	590,000	580,000	610,000	—
	東北	724,160					—
	本州関東以西・四国 （兵庫県を除く）	713,250					—
	兵庫県	1,073,844					—
	九州・沖縄	708,186					—
褐毛和種	652,900	560,000	540,000	530,000	—	560,000	—
その他の肉専用種	—	360,000	340,000	—	—	360,000	—

注1：優良和子牛生産推進緊急支援事業は令和7年10月～12月販売分、和子牛産地基盤強化緊急特別対策事業は令和7年10月～12月販売分及び保留分が対象となります。

注2：黒毛和種の平均価格は、肉用子牛生産者補給金制度の対象となる6ヵ月齢～12ヵ月齢の肉用子牛の指定市場における取引価格を用い、要綱別表1に定めるブロック別、四半期ごとに算出し、全国平均に対して著しく高い価格（偏差値70（平均+2標準偏差）以上）となる都府県（今回は兵庫県が該当）はブロック別平均価格の計算から除外します。

注3：褐毛和種については、全国で、四半期ごとに算出します。

注4：その他の肉専用種については、令和7年4月～令和8年3月までの取引価格を用いて全国の年平均価格を算出します。

注5：平均価格及び発動基準価格は、消費税込みです。

肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン制度）発動状況

（単位：円）

販売月		肉専用種（東北ブロック福島県）	交雑種（全国）	乳用種（全国）
令和7年10月	暫定単価	8,285.4	0.0	9,717.3
	概算払い単価	1,285.4	0.0	2,717.3
	精算払い単価	7,000.0	0.0	7,000.0
令和7年11月	暫定単価	0.0	0.0	24,499.8
	概算払い単価	0.0	0.0	17,499.8
	精算払い単価	0.0	0.0	7,000.0

※R4. 7月販売分より概算払単価は、標準的生産費と標準的販売価格との差額に100分の90を乗じた額から7,000円を控除した額となります。

畜産福島

令和8年度 福島県家畜市場総合カレンダー

令和8年 4	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	曜日	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	
5	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	曜日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
6	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
7	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	曜日	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
8	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	曜日	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
9	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	曜日	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	
10	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
11	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
12	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	曜日	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
令和9年 1	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	曜日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
2	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
3	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水

※[全農]：JA全農福島 開催日 [県酪協]：福島県酪農協 開催日

家畜市場名	市場開設団体	電話番号【FAX】	取引家畜
福島県家畜市場(本宮市) 0243-39-2636 【FAX】39-2690 (市場は開設日のみ)	JA全農福島(家畜市場課)	【TEL】024-983-0570 【FAX】024-956-0420	毎月：和牛子牛・乳子牛 4・6・8・10・12・2月：成牛(偶数月)
	福島県酪農協同組合(購買畜産課)	【TEL】0243-33-4011 【FAX】0243-33-6983	毎月：肉用乳子牛 5・7・9・11・13月：妊娠牛・産子牛併設
	(管理団体) 公益社団法人福島県畜産振興協会(業務課)	【TEL】024-573-0513 【FAX】024-573-0565	

※ 御購買・輸送等は開設又は上場組合にご相談ください。

全国農業協同組合連合会 福島県本部 福島県酪農協同組合 公益社団法人 福島県畜産振興協会

家畜取引状況報告

令和7年11~12月 和牛子牛市場成績 (県家畜市場)

JA全農福島県本部

(税込み)

Table with columns: 開催月, 性別, 頭数(頭), 取引価格(円) [最高, 最低, 平均], 平均体重(kg), 平均単価(円/kg), 平均日齢(日), 販売先 [県内, 県外]. Rows for months 11 and 12, including sub-rows for gender and count.

令和7年11~12月 乳子牛市場成績 (県家畜市場)

福島県酪農業協同組合

(税込み)

Table with columns: 開催月, 種別, 頭数(頭), 取引価格(円) [最高, 最低, 平均]. Rows for months 11 and 12, categorized by breed type (ホル雄, ホルフリー, etc.).

令和7年11~12月 乳子牛市場成績 (県家畜市場)

JA全農福島県本部

(税込み)

Table with columns: 開催月, 資格, 頭数(頭), 取引価格(円) [最高, 最低, 平均], 平均単価(円/kg), 平均体重(kg). Rows for months 11 and 12, categorized by qualification (乳登, 妊娠牛, etc.).

Advertisement for Fukushima Prefecture. Text: '牛も安心 地球も安心 福島県推奨のたね'. Includes logo of Fukushima Prefecture Livestock and Agriculture Promotion Association and contact info.

地方競馬 場外発売日程 (大井競馬専用場外) TEL.024-554-0040. Includes race schedules for February and March, and NAR logo.